

もも・ネクタリン特報 No. ⑨

2022. 8. 1

J A 中野市営農センター

J A 中野市りんご・もも部会

※この特報No.⑨は、7/14 発行の「もも・ネクタリン特報No.⑧」の薬剤散布（散布目安は、7/25～8/5 頃）が終わってから行なう防除を掲載しています。特報No.⑧の内容を再度、ご確認ください。

※引き続き、せん孔細菌病（枝病斑・葉病斑・果実病斑）を見つけ次第、除去して下さい。

※有袋品種の除袋遅れには十分注意下さい。（除袋目安：収穫 10 日～14 日前）

※次面には、栽培管理作業について記載しています。再度ご確認ください。

農薬散布時の注意事項

- ①有袋品種は、除袋後に散布を実施する。
- ②隣接園・今後収穫期を迎える作物に飛散しないよう十分注意する。
- ③散布後は、タンク内や散布器具の洗浄を十分に行い、薬液が残らないよう注意する。

もも

第11回 定期散布

散布時期

8月上旬（第10回目の定期散布から14日後）

・散布日の目安：8月8日～18日

散布日 月 日

散布量 リットル

散布薬剤

水 100ℓ当り

展着剤（ハイテンパワー） 10ml

アルバリン顆粒水溶剤 50g（収穫前日まで、3回以内）

オーシャインフロアブル 50ml（収穫前日まで、3回以内）

散布量

10アール当り 500ℓ

混用順

水 ⇒ 展着剤 ⇒ アルバリン顆粒水溶剤 ⇒ オーシャインフロアブル

対象病害虫

灰星病、黒星病、ホモプシス腐敗病、シンクイムシ類、モモハモグリガ、カメムシ類

注意事項

①アザミウマ類対策：ディアナWDGの10,000倍（前日、2回）を加用する。

②せん孔病発生園対策（晩生種）：袋掛けが終了していない場合は、スターナ水和剤1,000倍（収穫7日前、3回）を加用する。収穫前規制に注意する。

ネクタリン

第11回 定期散布

散布時期

8月上旬（第10回目の定期散布から14日後）

・散布日の目安：8月8日～18日

散布日 月 日

散布量 リットル

散布薬剤

水 100ℓ当り

展着剤（ハイテンパワー） 10ml

アルバリン顆粒水溶剤 50g（収穫前日まで、3回以内）

オーシャインフロアブル 50ml（収穫前日まで、3回以内）

散布量

10アール当り 500ℓ

混用順

水 ⇒ 展着剤 ⇒ アルバリン顆粒水溶剤 ⇒ オーシャインフロアブル

対象病害虫

黒星病、灰星病、ホモプシス腐敗病、シンクイムシ類、カメムシ類、モモハモグリガ

注意事項

①もも混植園 アザミウマ類対策：ディアナWDGの10,000倍（前日、2回）を加用する。

②せん孔病発生園対策（晩生種）：袋掛けが終了していない場合は、スターナ水和剤1,000倍（収穫7日前、3回）を加用する。収穫前規制に注意する。

栽培管理作業について

除袋 ～ 収穫までの流れ

除袋（収穫 10～14 日前） ⇒ 収穫前最終防除 ⇒ 反射マルチ（収穫 7～10 日前） ⇒ 収穫
(葉摘みは、除袋期から反射マルチを敷くまでに適宜実施する)

◆除袋

	品 種	除袋 終了目安
着色しやすい品種	白鳳・あかつき・なつっこ・川中島白鳳・川中島白桃・黄金桃など	収穫 10 日前
着色しにくい品種	山根白桃・志賀白桃・白桃・白根白桃・ゴールデンピーチ・秀峰など	収穫 10～14 日前

- ① 除袋適期：果実の地色が抜け、やや緑色が残っている時期。地色の緑色が完全に抜け、果面が黄白色では遅い。
- ② 果実温が低い時間帯に除袋を行うと日焼けを生じやすいため、早朝に除袋は行わない。
- ③ 2重袋を使用している場合は、外紙を除いて中袋を残して収穫する。
⇒ 成熟が早まる傾向があるため、除袋が遅れないよう注意する。除袋が遅れると、鮮明な着色に仕上がらない。
- ④ 除袋後は果実に密着している葉を摘み取り、着色のムラを防ぐ。(極端な葉摘みはしないこと)
- ⑤ 除袋時期に入って天候不順で日照不足が続くときは、2日くらい早めに除袋する。

◆反射マルチ

反射マルチは白系マルチ『タイベック』等を使用する。

(タイベック ⇒ 夏の高温対策、成熟の極端な進みを回避。着色向上にも有効)

着色のしやすい品種＝収穫 7～10 日前	着色しにくい品種＝収穫 10～14 日前
[使用上の注意]	
1. 徒長枝切りや樹冠の混みあっている枝を整理し、園全体の日照条件をよくする。(暗い園は効果が少ない)	
2. 事前に園内の除草や整地を行ない、地面を平らにする。	
3. 反射マルチは風で飛ばないように固定する。	
4. 着色が食味より先行するため、早もぎになりやすいので収穫は熟度を確認してから行なう。	

◆葉摘み

果実周辺の密着している 2～3 枚(多くても 5～6 枚程度まで)を摘む。

葉摘み開始時期 ⇒ 有袋：除袋期前後から実施 無袋：着色始めから実施

◎果実の鮮度保持のため、果実温の低い時間帯に収穫する。(早朝から午前 8 時ごろまでが望ましい)

◎収穫の際は、果頂部に指先をかけないように手のひらを果頂部にあて、指先は果梗部の近くの肩にかけて、ゆっくりと動かして採取する。

◆一般管理

果実肥大が進んでくると、主枝の垂れ下がり、枝折れが心配されます。支柱を立て、枝つりを見直しましょう。

★灌水：10 日以上雨が降らない場合、必要に応じて灌水する。*参考：成熟 10 日前までは、10 a 当り 20 mm 程度。

★排水対策：本年は梅雨明け以降も多雨が予想されているため、予め暗渠・明渠等の対策を講じておく。